

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
17	山下いづみ（19）	<p>1. 国勢調査で使用した調査用品の取扱いについて</p> <p>令和2年10月、総務省統計局から地方自治体へ「令和2年国勢調査における調査終了後の調査用品の取扱いについて」の通知が出された。従来は市町村事務要領等に基づいて、焼却等により処分することとしていたが、2020年の国勢調査で使用された手さげ袋などの調査用品については、社会的に有効活用する観点から、公的機関またはボランティア団体等と連携し悪用防止に配慮しつつ再利用できるというものである。</p> <p>他の自治体で取り組まれた国勢調査用品再利用事業を自治体ホームページやニュースで散見する。SDGs推進が叫ばれている昨今、国勢調査用品の再利用はぜひとも取り組むべきことである。そこで3点質問する。</p> <p>(1) 国勢調査用品の有効活用について</p> <p>① 国勢調査で使用された手さげ袋は何個か。手さげ袋はどのように利活用されているのか。利用に工夫した点はあるか。</p> <p>② 国勢調査で使用した下敷き、指導員証・調査員証ケース、筆記具セットはどのように活用されているのか。</p> <p>(2) 今後、どのような取組をしていくのか。</p> <p>2. 富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にするにはいかがか</p> <p>富士ジュニアオーケストラは今年14周年を迎える。本年5月に開催された東京オリンピック・パラリンピックに向けた開催100日前イベントではスイス、ラトビア、モンゴルの楽曲演奏で会場の皆様に感動を届けたことは記憶に新しい。「豊かな心と協調性を育てる。地域の文化向上に寄与する。音楽を世界に発信する」ことを目的に2007年に当楽団代表の茅原初子氏発案で富士市教育委員会・富士市文化振興財団後援、富士フィルハーモニー管弦楽団の協力の下に発足した。この14年の間、約300名が巣立ち、若手が育ちつつある。毎年の定期演奏会ではOB・OGの音大出身者や国内外の富士市、及び富士市近郊出身の演奏家のゲスト出演なども実現している。そして、富士市・富士川町合併記念式典、国際交流の集い、中国嘉興市青少年友好親善使節団、富士市・嘉興市友好都市提携25周年記念式典などで演奏を披露し、本市の式典や国際親善に寄与してきた。運営は発足時からボランティアで行われており、近年では運営人員の方々の高齢化などで存続の危機となっている。本市の音楽を通じた青少年の育成、芸術文化振興、国際親善の継続、発展のためには富士ジュニアオーケストラの継続が望まれる。富士ジュニアオーケストラを本市主体の公立運営にするにはいかがか。</p>	市長 及び 担当部長